

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 多摩市立愛和小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒206-0041

東京都多摩市愛宕1-54

E-mail daihyo-aiwa-sho@city.tama.ed.jp

Website http://schit.net/tama/esaiwa/

幼児児童生徒数 男子 162名 女子 145名 合計 307名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、持続可能な未来社会を築く一員として望ましい人格を育むことを目指し、保護者・地域ぐるみのESD・環境教育「愛和小グリーンプロジェクト」を通じて、「主体的な態度」「協働する力」「問題把握し解決する力」の3つの資質・能力を身に付けることを目標とした。

具体的には、自他を尊重する「①人権」に関わる教育を基盤とし、「②環境」に関わる活動として、「②-1 育てて食べて命の循環を考える学校菜園の活動」と「②-2 親しみ愛し守り育てる学校林の活動」を柱に、前記の3つの資質・能力を総合的に育むこととした

①人権に関わる教育

「愛和小グリーンプロジェクト」開始当初に、東京大学大学院 客員研究員 藤井輝明 氏を招聘し、児童及び保護者・地域を対象とした講演等を実施した。児童には、自他の大切さを認め、共に生きていくことの素晴らしさについてお話をいただくとともに、保護者・地域には『家族・地域・学校が連携して取り組む児童の育ち』をテーマに、児童が持続可能な未来社会を築いていくために大切なことを、「人権」をキーワードとしてお話していただいた。

②環境に関わる活動

生活科・総合的な学習の時間を中心に、本校の豊かな緑の環境「学校菜園」と「学校林」を学びのステージとして、主体的・協働的な探究活動による一学年一取組を実践した。なお、これらの取組は、E S Dカレンダーを基に教科等との関連を重視して実施した。

②-1 育てて食べて命の循環を考える学校菜園の活動

学校菜園では、いろいろな野菜を育てて調理したり、菜園の活動を外国の方に紹介したりしながら、命のつながりについて学ぶ活動に取り組んだ。なお、活動に当たり、保護者、支援団体の協力を得た。

【2年】目指せ！野菜作り名人：野菜の栽培、観察、収穫と野菜パーティー

【3年】見つけて広げて大豆から：大豆の栽培、観察、収穫、調理

【6年】愛和自慢PR大作戦：イギリスや東ティモールの方への活動紹介等

②-2 親しみ愛し守り育てる学校林の活動

学校林では、自然遊びを楽しんだり、生息する動植物や湧き水等の環境調査に取り組んだりしながら、環境の学習を進めた。なお、調査活動や環境改善に向けた活動においては、専門家を招聘し、活動の充実を図った。

【1年】愛和の森で遊ぼう：自然遊び、植物の生長や季節の変化への気付き

【4年】私たち地球調査隊：動植物や湧き水の調査、愛和小環境マップ作り

【5年】みんなの森パワーアッププロジェクト

：環境整備と動植物を含めた誰にとっても優しいみんなの森作り



①人権（藤井先生の講演、交流）



②-2
（1年 愛和の森で遊ぼう）



②-1（2年 野菜作り名人）



②-1（3年 大豆から）



②-2（4年地球調査隊）



②-2（5年 みんなの森）



②-1（6年 PR大作戦）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

<ul style="list-style-type: none">・教科用図書 生活科 (教育出版)、国語科 (光村図書)、社会 (東京書籍) 等・学校図書館の書籍「新ポケット版図鑑 植物」 「お豆なんでも図鑑」他・ウェブサイト 「くらしと環境 学習Web」(東京都教育委員会) 「ESDポータルサイト (今日よりいいアースの学び等)」(文部科学省) ※同サイトにてリーフレット「ESD QUEST」を閲覧・使用

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

教育課程に「特色のある教育活動」として「ユネスコスクールとして ESD の視点に立ち、交流や発信を通じて、人と協働して未来社会を築こうとする責任ある価値観と実践力を育成する。」と位置付けるとともに、「愛和小 ESD の推進に向けたカリキュラム編成方針」を基に、ESD カレンダーを作成し、各教科等と関連させた横断的な指導を計画的に実施して、指導の効果を高めている。

また、ESD 推進の中心となる生活科・総合的な学習の時間の実践を校内研究として位置付け、研究授業に基づく協議会を実施することで、全教職員による指導方法の工夫改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

校務分掌に「ESD・環境教育」担当として、教員を3名（うち1名は市の ESD 担当教員とする）配置して、一学年一取組やオリンピック・パラリンピック教育「環境」の取組の推進、ESD カレンダーの見直し・改善に取り組んだ。また、校内研究に ESD の視点を取り入れ、生活科・総合的な学習の時間の授業実践に取り組むなど、全校体制で組織的・継続的に活動を進めた。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

活動の評価場面としては、年間2回実施する「学校評価」（教職員・児童・保護者対象）がある。評価項目として、前記の本校で育みたいの3つの資質・能力に関する項目を設定し、アンケート調査を実施した。その結果、児童・保護者では、いずれの項目についても肯定的回答が7割を超えたが、教員では7割を下回るなど、ユネスコスクールとしての活動について、概ね肯定的ではあるが、教員間では温度差があり、今後も改善の必要性があることが明らかとなった。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

発信の場は、紙上発表となる「多摩エコフェスタ」と、保護者・地域との交流を含めたお店形式の「愛和フェスティバル」の2つがある。とりわけ、「愛和フェスティバル」においては、各学年でブースを設け、ESDの取組を前後半に分かれて2部制で発表した。これにより、児童は他学年の取組を知り、進級後の取組意欲を高めるとともに、保護者・地域に本校のESDの取組を理解・啓発するよい機会となり、大変好評であった。(参加の保護者・地域の方：407人)

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

次の学校以外の団体等と協働し、児童を中心に据えたESDの取組を推進・充実している。

- ・多摩市教育委員会
- ・愛和の森 友の会(学校林の活動の支援団体)
- ・一般社団法人 エディブル・スクールヤード・ジャパン
- ・愛和小学校PTA
- ・地域老人会「あおぞら会」「十和会」、愛宕第2ブロック自治会
- ・多摩市青少年問題協議会(東愛宕地区委員会)

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

国内では、多摩市内の全小・中学校がユネスコスクールのため、多摩市教育委員会主催の研修会等を通じて、他校の教員同士の交流に取り組んでいる。中でも、年間1回開催の「ESD子どもみらい会議」では、発表校児童によるESDの取組発信から、様々な取組を知るよい機会となっている。また、国外では昨年度、韓国の小学校とのWebによる児童同士の交流を実施したが、今年度は実施時期の調整がつかず未実施となった。次年度は、国外のユネスコスクールとの交流も実施していく予定である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

特筆すべき内容は2点ある。1点目は、ESDの取組成果の発信の場である「愛和フェスティバル」を開催したことである。これにより、ESDに関する保護者・地域の理解・啓発を進めることができ、学校との協働に向けて関心を高めることができた。2点目は、校内研究と連動させ、ESDを推進したことである。これにより、ESDの視点からの教員の授業改善が進むとともに、教科横断的なカリキュラムの作成につなげることができたことは成果と言える。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

全学年を対象とし、「親しみ愛し守り育てる」学校林の活動と、「育てて食べて命の循環を考える」学校菜園の活動を保護者・地域との協働の下に実践し、持続可能な社会の担い手としての価値観と実践力を育む。

具体的には、生活科・総合的な学習の時間を中心として、学校林での自然遊びや環境調査など「親しみ愛し守り育てる」活動や、学校菜園での野菜の栽培・収穫・調理など「育てて食べて命の循環を考える」活動に、ESDカレンダーを基に保護者・地域と協働して計画的・継続的に各学年が取り組む。

こうした体験的な学びを通じて、自分たちの生活環境や生物の生息環境の保全等、環境に関わる様々な問題に気付くとともに、それらの問題を解決する過程を通じて、「人、もの、こと」との関わり、つながりを深めながら「主体性」「協働性」「問題解決能力」の3つの資質・能力を総合的に育む。